

自昭和十二年十二月五日
至昭和十三年十二月十三日

南京城攻撃之記

脇坂部隊

6-1

0414

井出少將ノ指揮セラルル第九師團追撃隊主力ヲ夕
 ル歩兵第三十六聯隊主力ハ十一月二十日午後一
 時蘇州ヨリ出發シ陰雨霏々タル中ヲ鐵道線路沿
 ヒ追撃前進ス途中泥濘ト彈雨ヲ肩シ望亭無錫ノ
 敵ヲ撃破シ續テ連日諸障礙物ヲ排除シ又殘敵ヲ
 掃蕩シツテ常州金壇天王寺ト糧食ノ缺乏累加ス
 ル勞苦寒氣ヲ克服シツテ一路南京ニ向ヒ驀進シ
 早クモ十一月五日午斤三時滄化鎮東側ヲ南北ニ
 流ルル丘綾線上ニ堅固ニ陣地ヲ占領セル敵前ニ
 達ス
 此ノ陣地ハ南京東方大葉山々系ニ連ナル南京要
 塞本防禦線ノ一部ニシテ三線ヨリ爲ルトカ
 陣地線ヲ骨幹トシ其ノ間ヲ掩蓋ヲ有スル野戰陣
 地ヲ以テ連絡シ陣地前ニハ二線ノ屋狼型鐵條網

ヲ張リ圍ラシ又一連ノ對戰車壕ヲ有シ極メテ堅
 固ナリ
 聯隊長ハ前兵長タル伊藤少佐ノ報告並ニ自ラノ
 偵察ニ依リ陣地ハ極メテ堅固ナルモ配兵少ナシ
 ト判断シ新ニ山崎大尉ノ指揮スル清水大隊ヲ伊
 藤大隊ノ右ニ展開シ一擧ニ之ヲ突破シ南京ニ突
 進セシト企圖セルモ接敵ト共ニ敵火益々猛烈ト
 ナリ其ノ第一線ハ一部ヲ突破セルモ死傷續出シ
 終ニ前進困難トナリタルヲ以テ同一地ニ位置ス
 ル旅團長ノ認可ヲ得テ爾後遂次攻撃陣地ヲ推進
 シ六日薄暮終ニ第一線陣地ヲ占領ス
 聯隊長ハ直ニ稽皮大隊ヲ清水大隊ノ右ニ増加戦
 果ヲ擴張シ更ニ第一線陣地ニ對シ突撃準備陣地
 ヲ推進ス此ノ間敵ハ續々兵力ヲ増加シ抵抗

益々頑強ナリ第一線將兵ハ携帶口糧疾ニ盡
 キ果テ豫備隊ヨリ前送スル僅少ナル握飯ト芋ト
 ニ依リ饑餓ヲ凌キツ、肌ヲ刺ス師走ノ寒風モ物
 カハ不眠不休堀進作業ヲ續行ス
 七日師團主力ニ迫及シ遊撃隊ハ新ニ左翼隊トナ
 リ八日朝ヨリ師團砲兵ノ主力ヲ以テ協力セラ
 ルルコトトナレルヲ以テ聯隊長ハ旅團長ノ企圖
 ニ鑑ミ八日午後ニ時ヲ期シ總攻撃敢行ヲ決意シ
 着々準備スル所アリ
 翌八日早朝聯隊長ハ副官以下ヲ帶同シ迫撃砲ノ
 集中火ヲ肩シ大平橋東側高地ニ進出シ戦況ヲ日視
 シツ、協力砲兵觀測所ト密接ニ連繫シ戦鬪ヲ指
 揮ス旅團長自ラ副官反連絡ヲ爲到レル松澤參謀
 ヲ帶同シ大平橋而南側高地同線上ニ進出シ聯隊

ノ戦闘ヲ指導ス

逸前

七日夜聯隊長ハ八日優勢ナル砲兵協力

ノ下ニ總攻撃強行ニ關シ第一線大隊長

ノ意見ヲ徵スルヤ伊藤大隊長ハ敵陣地

極メテ堅固ナル故攻撃ヲ強行スルハ徒

損害ヲ續出シ爾後ノ突進力ヲ減少シ

詰局南京城攻略遲滯スヘシ故ニ正攻法

ニ依リ九日拂曉突入スルヲ可トス

強行不可ノ意見具申ヨナス

然ルニ聯隊長ハ旅團長ノ意ヲ体シ全般

ノ清況ニ基キ断乎八日ノ總攻撃ヲ命ス

ルヤ伊藤大隊長ハ部下中隊長ヲ本部暨

壕ニ集メ之ヲ下達ス此時某隊長カ構

々理由ヲ擧ケ不可ナルヲ力説セントス

陣地ヲ覆ニ敵ノ射撃ハ次第ニ衰微ス午後二時
 始スルヤ轟々タル爆音ニ天地ハ鳴動シ砲煙ハ敵
 午後二時稍前友軍飛行機消化鎮部落ノ爆撃ヲ開
 ルハカリナリ吾彈着ハ極メテ正確ナリ
 ハ一齊ニ火蓋ヲ切り銃砲聲殷々トシテ耳ヲ聳ス
 八日午後一時五十分豫定ノ始ク配屬協力山砲兵
 眞ニ床シキ武人ノ心掛ナリ
 論サレシトソ
 大ノ努力ヲナスコリ部下ノ道ヲアルト
 セシムヘキニツキ最善ノ方法ヲ選ヒ最
 ノ心ニナリ如何ニシテ其ノ決心ヲ達成
 咤シ次テ顔色ヨ初ケ静カニ今ハ聯隊長
 朱ヲソソキ燃レ!! 聯隊長ノ命令ダト叱
 ルヤ日頃温厚ヲ以テ聞ユル少佐ハ顔面

砲兵ノ射程延伸ノ發煙彈射擊ニ膚接シテ檜皮部
 隊先ツ猛然突撃ヲ發起スレハ之ニ後レシト清水
 部隊モ輕裝甲車ノ突入ニ連繫シ敢然突入シ伊藤
 部隊ノ一部又之ニ續キ手榴彈ヲ亂投スル敵ニ白
 兵ヲ振ヒ肉迫シ壯烈ナル白兵戦ヲ交ヘ終ニ午後
 二時三十分之ヲ占領ス檜皮清水兩大隊ハ機ヲ失
 ヒス敗退スル敵ニ尾接急追シ之ヲ友軍砲兵狙止
 彈幕ニ壓劔殲滅シ午後二時五十分清化鎮西端ニ
 進出ス

(註) 本戦鬪ハ歩砲飛協同ノ最ニ適切ナル戦例
 ニシテ之カ主ナル原因ヲ列擧スレハ次ノ
 如シ(戦ニ六戰四〇)
 一 師團長旅團長ノ部署並ニ指導適切ナリシ
 コト

2. 長期戦鬪間常ニ協力シ相互ノ精神的結合
 3. 旅團長歩兵聯隊長砲兵聯隊長ト共ニ同一
 地ニ位置シ聯隊ノ戦鬪指揮ニ即應シ得タ
 ルノミナラス特ニ自ラ敵火ヲ肩シ砲兵觀
 測所ニ進出シ常ニ緊密ナル連絡ヲナシタ
 ルコト
 4. 敵陣地ニ平行セル綫ヲ占領シ了リテ展
 望自在ニシテ地形我ニ有利ナリシコト
 5. 第一線部隊ノ最終弾ニ膚接シ突入スルノ
 氣概ノ充溢セルト砲兵ノ最終彈標示ノ發
 煙彈ニ依リ極メテ明瞭ナリシコト
 8. 血戰ニ日ノ猛攻ニ部下ノ死傷多ク疲勞
 困憊ニ達シタルニモ拘ラス斷乎清水檜皮

兩大隊ニ現態勢ヲ以テ先ツ上才鎮ニ向ヒ戰場迄
 撃ヲ命シ左第一線トシ敵ニ突入シ續テ前途セル
 第一大隊ヲ掌握シ直ニ本道上ヨ果敢ナル縱隊迄
 撃ニ移リ旅團司令官トシテ敵ヲシテ後方
 陣地ニ據ルノ余裕ヲ與ヘス午後四時早クモ清仁
 鎮西方約四軒ノ高嶺頭ニ進出ス
 (註)本戦鬪ハ聯隊長カ部下ニ對シ断乎疲勞ヲ
 顧ミス機ヲ失セス戰場迄撃ヲ敢行シタル
 戦例ニシテ之カ爲敵ヲシテ清仁鎮西側後
 線ノトイフカヨ有スル堅固ナル既設陣地
 ニ據ルノ余裕ヲ與ヘスシテ撃破シ得タリ
 若シ此ノ際姑息ナル部下愛情ノ情ニ驅ラ
 レ果敢ナラズ追撃ヲ躊躇ヒンカ再ヒテ大ノ
 損害ヲ拂ヒ此ノ陣地ヲ攻撃スルノ已ヲ得

敵歩兵ハ我猛射ニ依リ北側山地ニ向ヒ潰走ス
 敵戦車ハ尚モ後方ニ突入シ後續部隊ニ相等ノ損
 害ヲ與タルモ旅團司令部附近ニ在リシ山砲ノ適
 切ナル射撃ニ依リ撃退セララル
 聯隊長ハ第一大隊ニ命シ第一第四中隊ヲシテ本
 道ヲ扼守セシメ自ラ旅團長ニ戦況ヲ報告スルト
 共ニ旅團長ノ企圖ヲ承知シ爾余ノ部隊ハ旅團司
 令部ト共ニ高等頭ニ待機シ轉進セル兩大隊ノ成
 果ヲ待ツ午後八時頃約一百ノ敵ハ本道南側ヨリ
 第四中隊正面ニ逆襲シ來ルモ第四中隊ハ獨立機
 關銃大隊ト共ニ勇戦終ニ之ヲ撃退ス
 爾後敵ハ前陣地ニ據リ亂射ヲ續ケアリシカ八日
 夜十時頃ヨリ銃聲激次減少セルト共ニ旅團副官
 ヨリモ注意ヲ受ケ寺田大橋將校斥候ヲ派遣搜索

ノ 待 果 敵 ハ 退 却 ト 判 断 シ 旅 團 長 ト 直ニ 意 見 一 致
 シ 直ニ 第 一 大 隊 主 力 ヲ 前 兵 ト シ 果 敢 ナ ル 夜 間 追
 撃ニ 移ル 旅 團 司 令 部 モ 又 續 行 ス 時ニ 午 後 十 一 時
 三 十 分 ナリ 之 ヲ リ 先 轉 進 セル 清 水 大 隊 ハ 上
 方 鎮ニ 進 出 シ 待 機 中 ノ 敵 ヲ 撃 破 シ 自 動 負 車 一 輛
 及 仁 糧 食 ヲ 鹵 獲 シ 該 地 ヲ 占 領 シ 以 テ 山 下 村 方 向
 ノ 敵 ノ 退 路 ヲ 遮 断 ス 檜 皮 部 隊 ノ 尖 兵 中 隊 夕
 ル 第 七 中 隊 モ 又 續 イ テ 上 方 鎮ニ 向 仁 突 進 シ 途 中
 該 地 南 方 約 十 米 本 道 三 又 路ニ 於 テ 高 管 頭 方 向 ヲ
 リ 反 轉 シ 來ル 敵 サ イ ト カ 一 ヲ 要 撃 シ 將 校 一 兵 一 ヲ
 倒 シ 之 ヲ 鹵 獲 ス 第 七 中 隊 ハ 更ニ 上 方 鎮ニ 急 行 シ
 既ニ 該 地ニ 進 出 シ ア ル 山 崎 大 尉 ノ 區 處ニ 依 リ 上
 方 鎮 ノ 南 側 及 西 側ニ 陣 地 ヲ 占 領 シ 警 戒ニ 在 ス
 此 ノ 時 先ニ 高 管 頭ニ 突 入 シ 來レル 敵 戰 車 三 輛 ハ

轟々ト本道上ヨ反轉シ來ル即チ第七中隊及清水
 大隊ノ一部ハ夜暗ヨ利用シ好機ニ乘シ殊迫攻撃
 ヲ敢行シテ乘員ヲ刺殺シ其ノニ臺ヲ鹵獲更ニ續
 行セル自働貨車一輛ヲ奪取ス此頃山下村方
 向ヨリ三々伍々上オ鎮部落ニ府口還却シ來レル
 敵ハ該地ヲ占領セル清水部隊ヲ友軍ト誤リ不用
 意ニ接近スルヲ將兵ハ不意ニ襲ヒ或ハ刺殺シ或
 ハ斬殺シ約八十名ヲ倒シ山下村ノ敵ヲ殲滅ス
 (註)本戦鬪ハ近撃ニ當リ徒ニ敵ノ一部ノ抵抗
 ニ抑留セララル、コトナク主力ヲ以テ速ニ
 其ノ側方ヨリ突進シ敵ノ退路ヲ遮断シ之
 ヲ警滅シタル戦例ナリ(戦。五)
 (遠前)聯隊本部カ高等頭ニ於テ待機中傳令及
 軍旗中隊ノ兵カ夕食ノ準備ニ着手セン

聯隊主力カ上カ方鎮ニ進出スルヤ路上ニ巨体ヲ横
 フル敵戦車ヲ見將兵思ハス快哉ヲ叫ブ此ノ地ニ
 オイテ聯隊長ハ直ニ清水大隊ヲ本隊ニ編入シ其
 ノ兵力約三〇〇ハ上方鎮——光華門道ヲ只一筋
 ニ南京城ニ向ヒ突進シ旅團司令部ハ聯隊本部ニ
 續行ス時ニ空ハ漆ヲ流シタル如ク南京方向ニ炎

トスルヤ聯隊長ハ次級副官菅原少尉ヲ
 呼ヒ「飯ハニ食分炊ケト命ス」通崇ハ夕
 食一食分ヲ炊キ食事後翌朝ノ朝飯ト晝
 飯ヲ同時ニ炊ク習慣ナリシモ此ノ時ニ
 限り「特ニ命シタリ之ノ細密ナル準備カ
 後ノ急據ナル夜半ノ近撃開始ニ九日有
 未明ヨリノ光華門攻撃開始ニ極メテ有
 利ナリキ

々タル火災ヲ望ム待望ノ南京ハ指呼ノ間ニ在リ
 將兵ノ志氣大ニ振途中敵兵三々伍々列守ニ友
 軍ト誤リ混入シ來ルヲ兵ハ之ヲ不意ニ刺殺シツ
 前進ス彼我混交シ眞ニ平行追撃ノ状態ナリ
 尖兵中隊高橋門ニ達スルヤ一部ノ敵ハ抵抗ヲ試
 ミタルモ不意ニ白兵ヲ振仁怒濤ノ如ク一撃ニ突
 破シ追撃ヲ續行ス沿道ノ家屋ニハ焚火赫々ト
 燃殘リ此處彼處火災ヲ起シ支那兵ノ周章狼狽ノ
 跡歴然タリ七甕橋ニ迫ル頃支那軍兵營ノ方
 一甕橋盛ナルヲ音起ル非常呼集ナルハシ
 旅團司令部ハ左第一線タル歩兵第十九聯隊主力
 ノ關係上七甕橋ニ停止ス聯隊ハ遮ニ無ニ驀進シ
 敵ヲシテ抵抗ノ余裕ヲ與ヘス一撃ニ此ノ部落ヲ
 突破突進シ敵ノ抵抗ヲ殆ント受クルコトナク九

日午前五時十五分終ニ光華門前ニ達ス 天空ニ
黒々ト聳ヘテ見ユル大南京城壁ヲ仰キ將兵一同
血湧キ肉躍ル

(註)

本戰鬪ハ撿ヲ失セス放膽ナル夜間追撃ヲ

敢行シタル良キ戰例ニシテ聯隊カ天明後

ノ後續部隊ノ如ク高橋門七壘橋附近兩側

一連ノ掩蓋陣地ニ依リ大ナル抵抗ヲ受ク

ルコトナク速ニ城壁ニ進出シ得タルハ實

ニ之カ賜ナリ(戰ニハ)

此ノ時道路一側ノ街燈ハ一齊ニ炎火シ城壁上ヨ

リハ盛ニ照明彈ヲ發シ同時ニ熾烈ナル一齊射撃

ヲ受ク聯隊長ハ直ニ伊藤大隊ヲ本道北側ニ展開

シ光華門ノ敵情地形ヲ偵察セシメ清水大隊ノ主

力及山下村南方面ニ一時集箭シ態勢ヲ整ヘタル

6-7

0429

ヤ、選レテ追及セル槍皮部隊ヲ防空學校ニ集結
 ス時ニ天明トナリ城壁上ヨリノ射撃ハ益々烈シ
 ク後方七甕橋部落ニ毛銃聲熾ナリ
 聯隊長ハ危険ヨリ防空學校東北角ノ望樓ニ進
 出シ副官以下ト共ニ自ラ光華門ノ精況ヲ偵察シ
 旅團副官中川少佐モ又輕裝甲車ニ依リ危険ヲ見
 シ殘敵中ヲ突破シ防空學校ニ到リ激情地ヲ偵
 察スルト夫ニ第一線ノ情況ヲ明ニス
 諸報告偵察並ニ情報ヲ餘合スルニ當時光華門ハ
 門扉ヨリ固ク閉シ外濠ノ幅約百三十五米水深約八
 米ニシテ城壁ノ高さ約十三米門ニ通スル道路ハ
 對戰車壕並ニ五條ノ拒馬ヲ以テ阻斷シ道路兩側
 ハ水際ニ到ルマテ五條ノ鐵網ヲ以テ固メ城門
 西側並ニ城壁上ニハ十數箇ノ機關銃眼ヲ設ケ後

二判明セル如ク教導總隊ノ精銳ヲ以テ極メテ堅
 固ニ守備ス聯隊長ハ先ス配屬山砲門ニ城門ノ
 破壊射撃ヲ命シ爾後副官並砲兵大隊長茅賀砲兵
 少佐ト共ニ觀測所ニ位置シ戰鬪ヲ指揮ス觀屬
 山砲兵大隊ハ門ヲ以テ防空學校圍壁ヨリ直接
 照準ニ依リ破壊射撃ヲ實施シ門扉ノ一部ヲ破壊
 シタルモ内部ニハ土囊木材ヲ填實シアリ加フル
 ニ補給ヲ受ク暇ナク急迫セル爲彈藥僅少ニシ
 テ突撃路ヲ開設スルニ至ラズ次ニ小坂工兵大
 尉ノ指揮スル決死隊ハ本道上ニ展開セル輕裝甲
 車並ニ伊藤大隊ノ支援射撃ノ下ニ拒馬ヲ引ノケ
 城門ニ接近シ前後ニ亘リ爆破ヲ敢行セルモ
 藥量少キト爆藥埋填ノ暇ナキ爲効果少ク午八
 時更ニ藥量ヲ増加シ爆破破セルモ完全ニ突撃路ヲ

6-10

0431

開設スルニ到ラスシテ再ニ敵ニ填塞セラル
 此ノ間雨花台方向ヨリスル敵ノ砲撃盛ニシテ人
 馬ノ死傷多キモノトモセス右第一線伊藤大隊ハ
 工兵ノ作業ヲ支援シ且光華門ニ對スル突撃ヲ準
 備シツ、夜ヲ徹シ又左第一線槍皮大隊ハ通濟門
 二對スル攻撃ヲ準備シ豫備隊タル清水大隊ハ大
 隊長代理西森少尉ノ指揮ノ下ニ防空學校ヲ南
 方ニ對シ警備ス午後一時頃ヨリ防空學校西端
 附近ノ無名部落ニ敵兵續々集積シ其ノ數四乃至
 五百ニ達スルヲ月撃スルヤ清水大隊ハ急襲的集
 中射撃ニ依リ之ニ多クノ損傷ヲ興ヘ而方ニ撃退
 ス午後十時頃約ニ百名ノ敵ハ協和橋及ニ平行
 セル鐵橋ニ對シ夜襲シ來レルヲ以テ第九中隊及
 第三機關銃ハ之ヲ猛射シ交戦約三十分ニシテ之

ヲ西南方ニ撃退ス
 本夕以陣特ニ各方面ヨリ壓
 迫セラレ光華門ニ入ラントスル敗殘兵聯隊ト旅
 團司令部ノ間ニ充滿シ來ル翌十日敵ハ續々兵力
 ヲ光華門附近ニ集中シ敵ノ銃砲火益々熾烈ニシ
 テ又背後方タル雨花台方尙並紫金山方尙ヨリス
 ル砲兵ノ集中射撃ニ人馬ノ死傷續出ス
 在七甕橋旅團司令部ト聯隊ト間ハ殘存陣地並
 ニ充滿セル敗殘兵ノ爲命令受領者土田軍曹戰死
 シ通信兵モ戰死シ或ハ負傷シ爲ニ中川副官連絡
 以來僅力ニ無線電信ヨ以テ連絡スル状態ナリシ
 カ十日午前八時頃旅團副官武田大尉ハ旅團長ノ
 命ニ依リ山砲彈藥五百及機關銃彈藥補給ヲ兼テ
 輕装甲車ニ乗シ中間ノ敵陣地ヲ突破シツツ聯隊
 本部ニ到着旅團長ノ意圖ヲ傳ヘ聯隊長ヲ輔佐シ

成シ午後五時稍前辛フシテ突撃路ヲ開設ス
 上部並ニ土囊ハ漸次崩レ落于急峻ナル斜坡ヲ形
 照準ニ依リ釣瓶打ニ破壊射撃ヲ開始スレハ城門
 ト共ニ戦鬪指揮ニ任ス午後三時山砲ニ門ハ直接
 爾後山砲觀測所ニ在リ芳賀砲兵大隊長鈴木副官
 泉ヲ待テ午後五時三十分ヲ期シ突入スヘク命シ
 山砲ニ城門破壊射撃ヲ命シ且第一大隊ニ其ノ成
 砲彈ヲ補充サレタルヲ以テ午後三時再ニ配屬
 撃ヲ受ケ破壊シ塔乗者ハ戦死セリ聯隊長ハ山
 送りシ装甲車ハ防空學校門前ニ出ツルヤ直ニ射
 對戦車砲ヲ配置シ在リ爲ニ旅團副官武田大尉ヲ
 密ニ旅團司令部ト連絡ス當時敵ハ既ニ城壁上ニ
 線目終ニ連絡成功ロルヲ以テ爾後電話ニ依リ
 且午前十時聯隊通信班ハ決死的作業ヲ依リ三回

此ノ時敵ノ軍迫撃砲十数發ハ觀測所附近ニ集
 中シ轟々夕リ爆音ニ屋根ハ崩レ耳ハ聾シ烈シキ
 閃光ニ目モ眩ミ家々夕ル砲煙ニ呼吸モ困難トナ
 リ一時戰鬪指揮モ罷撃モ中絶ス砲煙漸ク散シ
 城門ノ方ヲ見レハ伊藤大隊ノ一部ハ既ニ城門ニ
 突入シ斜坡上ニ打振ル可章旗翻翻タリ將兵思ハ
 ス萬歳ヲ叫フ時ニ午前五時ナリ
 之即敵ノ砲撃力我力戰鬪司令所ニ集中シタル好
 機ニ乘シ獨斷伊藤少佐カ突入ヲ命スルヤ敢然山
 際少尉ノ率ユル第一中隊突撃ヲ發志スレハ葛野
 中尉ノ指揮スル第四中隊之ニ續キ一擧ニ城門内
 ニ突入シ之ヲ占領シタルナリ
 戰源益々悲慘ナルモ將兵ハ勇氣旺盛ナリ聯隊長
 直ニ伊藤大隊ハ全滅ヲ時ニテ光華門ヲ確保ス

へシノ要旨命令ヲ下達ス
 用シテ壯烈ナル決意ヲ以テ予備隊タル第三中隊ヲ
 率ヒ城門ニ前途シ城府ヨリスル後關銃ノ縦射ト
 城門上ヨリスル手榴彈ノ投下ニ依リ戦死傷續出
 スル極メテ困難ナル戦況中ニ在リ沈着剛膽部下
 ヲ激勵拵中ノ九時終ニ敵手榴彈ノ爲右額部
 受傷シ城門確保ヲ命シツツ壯烈ナル最後ヲ遂

(逸話) 伊藤大隊長ハ全滅ヲ暗シテ光華門ヲ確

保スヘシノ聯隊命令ヲ受領スルヤ聯隊
 副官旅團副官武田大尉ニ電訪シテ云ハ
 ルヨウ誓ツテ城門ヲ確保ス聯隊長殿旅
 團長閣下ニ宣シクト其ノ聲從容トシテ
 笑ヲ含ミタリ聞ク者皆感激セサルハナ

濟 一 右 手 引 令 位 打 最 = 光 天 大 シ
 夕 兵 大 擲 下 林 置 カ モ 振 華 驍 隊 薄
 ル ノ 腿 彈 サ 上 置 ケ 危 フ 門 = 長 暮
 ヲ 胸 部 ハ ン 等 入 續 險 ナ 確 シ 此 決
 モ 剗 ヲ 少 争 ト 兵 レ 行 ス ル 少 保 タ 處 死
 ト リ タ シ 側 = 刺 那 飛 來 リ シ = 城 門
 モ セ リ 傳 令 爆 發 シ 少 佐 ノ 右 肩
 ス 直 等 兵 八 鮮 血 瀝
 少 佐 ノ 應 急

手雷ヲ為サントスレハ少佐ハ今ハ其レ
 = 及ハスト押しメ断ナキ機關銃ノ雨
 手榴彈炸烈スル暗黒ノ城門内ニ凜タル
 聲ヲ以テ幹部ノ呼名點呼ヲ始メ葛野中
 尉以下杉少少尉ノ健在ヲ確ムルヤ
 大ニ嬉フ少佐ハ更ニ傳令ヲ願テ厚刀
 ヲ取り脱シ吾遺命ヲ託シ汝ハ後退シ
 テ負傷ノ手雷ヲナスヘシト命スルモ林
 ハ死ナハ隊長ノ下ニト熱瀕シテ聞カス
 少佐ハ終ニ之ヲ許ス少佐ハ側ヲノ兵
 重傷スルヤ左手ニ之ヲ抱キ「オオ良ッダ!!」
 < 俺モ後カラ行クカラナト慰メアリ
 シカ午後九時頃又モヤ飛來リシ手榴彈
 ハ少佐ノ側ニ炸烈シ破片ハ右額部ニ命

及第一機關銃ヲ指揮シ善戰之ヲ擊退シ且一部ヲ
 ルモ當時原所屬ニ復歸セル竹川中尉ハ部下中隊
 學校方ヨリ第一大隊ノ背後ニ向ヒ夜襲シ來レ
 ヲ確保ス死傷ノ續出スルヲモトモセズ該地
 掩体ヲ設ケ死傷ノ續出スルヲモトモセズ該地
 石塊及木材ノ流レ落チタル内斜面ニ三段ノ
 爾後城門内ノ將兵ハ大隊長ノ遺命ヲ遵守シ土囊
 壘ニ立チ勇猛沈着部下ヲ仰キテ富嶽ノ
 (註)本戰鬪ハ指揮官カ率先躬行劍電彈雨ノ閉
 ノ人情味眞ニ武人ノ魯鑑ナリ傳ヘ聞
 終ニ光華門ノ華ト散リタリ此豪勇此
 中ス少佐ハ尚モ確保々々ト命シツツ

以テ光華門内ニ突進増援セシメ爾後遂次兵カヨ
 門内ニ補充スルト共ニ城門外第一大隊各中队ノ
 兵ヲ統一指揮シ該地ヲ確保ス十日夜十一時頃敵
 ハ催涙性瓦斯ヲ城門内ニ投シ又戰車一輛ヲ以テ
 前後數回亘リ至近距離ニ肉迫シ門内ヲ猛射シ
 又午前一時頃ヨリ城門上ヨリ材木ヲ投下シ之ニ
 石油ヲ注キ火ヲ放テ終夜焰ヲ以テ我兵ヲ苦シメ
 タルモ守兵ハ克ク之ニ耐ヘ光華門ヲ確保ス
 此間聯隊本部ハ城壁直下ノ防空學校屋内ニ在リ
 打下ス熾烈ナル敵火ノ下ニ夜ヲ徹シ戰鬪指導ス
 ルト共ニ後方ヨリスル彈藥ノ補充意ノ如クナラ
 サルヲ以テ豫備隊ノ彈藥ヲ集メ第一線ニ補充シ
 又本部當番ヲ以テ握飯ヲ作り前送ス
 夕刻野戰重砲兵大隊及獨立野戰重砲兵中队ハ旅

團＝協カヲ命セラレ飛行場附近＝陣地ヲ占領ス
 ルヤ旅團長ハ直ニ文ト連絡シ且勝坂聯隊長ノ意
 見ヲ徴シ翌十一日ノ戦鬪＝關シ締密ニ歩隊ノ協
 定ヲナス翌十一日天明聯隊長ハ先ツ既驛山砲一
 門ヲ以テ城門兩側及城壁ノ峭堡ヲ直接照準ニ依
 リ遂次破壊シ敵兵ノ遮蔽シテ城門ニ近接シ内部
 ノ我カ兵ニ手擲彈ヲ投スルヲ困難ナラシムルト
 共ニ一門ヲ以テ城門右側約五〇米城壁ノ破壊射
 撃ヲ實於シ協カ十加ノ為破壊位置ヲ明示スルマ
 協定ニ基キ飛行場＝有リシ十加ハ俄然猛烈ナル
 射撃ヲ開始ス彈着極メテ正確ニシテ城壁ハ遂
 次崩レ午前九時三十分友軍飛行機ノ爆撃ト相俟
 ツテ附近ノ敵ヲ壓倒震駭ス
 此ノ好機ヲ利用シ小銃分隊輕機三、重機一、八光華

6-15

0441

門内ヨリ城門上ニ攀登リ之ヲ占領セルモ我爆撃
砲撃中止スルヤ敵ハ大擧逆襲シ來リ我彈藥忽盡
果テ白兵ヲ振ニ突入スルモ敵ハ手榴彈ヲ亂投シ
遠卷ニ猛射ス爲ニ吾兵ノ大半ハ死傷加フルニ手
榴彈ノ爲梯子ハ折レ後方續カス終ニ涙ヲノミ門
内ニ後退セリ

逸話

聯隊長ハ早朝ヨリ迫撃砲連發炸烈シ
小銃機關銃彈雨下スルヲ物トモセス城
壁直下ノ戦鬪司令所ニアリ戦鬪ヲ指導
中ナリシカ吾兵門上ヲ占領スルヲ見ル
ヤ直ニ聯隊旗手根少尉ヲ呼ヒ伊藤少
佐ノ遺髪ト軍刀ヲ速ニ門上ニ上クルハ
ク區處ヲ命ス中根少尉ハ直ニ瀧波上
等兵ニ遺髪及軍刀ヲ奉シ城内ニ急行セ

午 後 二 時 三 十 分 聯 隊 長 八 城 門 外 第 一 大 隊 ノ 殘 部
 ヲ 以 テ 竹 川 集 成 中 隊 ヲ 編 成 シ 第 二 大 隊 長 檜 皮 少
 佐 二 命 シ 符 セ 之 ヲ 指 揮 セ シ ム 檜 皮 少 佐 八 直 二 第
 七 中 隊 ヲ 以 テ 集 成 中 隊 ヲ 増 援 シ 且 彈 藥 及 糧 食 ノ
 補 給 ヲ 計 リ タ ル モ 通 路 縱 射 サ レ 行 ク 者 皆 倒 レ 不
 成 功 二 終 リ 賊 門 内 ノ 將 兵 八 困 苦 故 乏 二 耐 へ 死
 カ ヲ 盡 シ 該 地 ヲ 確 保 ス 將 兵 此 一 部 ヲ 以 テ 旅 團
 カ ヲ 以 テ 防 空 學 校 ヲ 警 備 シ 且 一 部 ヲ 以 テ 旅 團
 ノ 中 間 ノ 殘 敵 ヲ 掃 蕩 ス 聯 隊 長 ヲ 輔 佐 シ 旅 團
 ノ 連 絡 二 任 シ ア リ シ 武 田 大 尉 八 旅 團 長 ノ 命 令 二

シ メ タ ル モ 門 上 ノ 戦 鬪 意 ノ 如 ク ナ ラ ス
 終 二 實 現 二 至 ラ ス 然 レ ト モ 少 佐 ノ 靈
 ハ 定 メ シ 此 ノ 麗 シ キ 武 將 ノ 愛 二 感 泣 シ

基キ午後四時歸還ス翌十二日協力十切ハ更ニ破
 壞射撃ヲ續行シ既屬山砲又敵ノ工事ヲ妨害シ終
 ニ午後四時頃急斜坂突撃路ヲ完全ニ開設ス
 協力十五擲ハ此ノ間城壁内側ノ敵ヲ猛射シ強大
 ナル傳力ニ依リ敵ヲ壓倒震駭ス槍皮大隊ハ機ヲ
 失セス城門内ノ我兵ニ對シ彈藥糧食ノ補給ヲ敢
 行シ終ニ成功ス爲ニ城門内ノ我兵ノ志氣大ニ振
 フ午後五時三十分頃通濟門方角ヨリ敗殘兵約
 ニ百ノ城壁ニ沿ヒ光華門方角ニ移動スルヲ發見
 シ砲兵及歩兵ノ主力ヲ以テ之ヲ射撃シ多大ノ損
 害ヲ與ヘ西方ニ潰走セシムナリ日夜半頃ヨリ
 敵ノ銃聲手擲彈ノ投擲漸次減少シ十三日午前四
 時頃全ク止ミタルヲ以テ竹川集隊中隊及擡皮大
 隊ヨリ直ニ斥候ヲ城壁上ニ派遣セシ敵兵ノ大

部既ニ退却セルヲ知リ竹川集成中隊ハ城門内ノ
 部隊ト呼應シ伊藤大隊長ノ遺骨ヲ奉シ城門ア
 右側ノ破壊斜面ヨリ檜皮大隊ハ第七中隊ヲ先頭
 =右破壊斜面ヨリ一擧=城壁上=踏上リ兩側城
 壁上ヲ掃蕩シ該地ヲ確保ス
 午前五時聯隊長ハ軍旗ヲ奉シ城壁上=上リ東ノ
 方皇居ヲ遙拜シ涙ト共ニ萬歳シ到着セル旅團長
 =報告シ旅團長ハ聯隊ノ戰鬥ニ關シ旅團副官武
 田大尉ヲシテ師團ニ報告セシム
 敵地上陸以來奮戰又奮戰終ニ待望ノ首都一番乘
 ノ榮譽ハ燦然トシテ我等カ軍旗ニ輝ケリ
 嗚呼神去リマシシ一千二百六十五名ノ英靈モ又
 冥スヘシ
 (逸話)聯隊長ハ死屍累々タル城門上ニ翩翻

6-17

0445

タル日章旗ヲ仰キ感慨轉々無量涙ト
共ニ詠ミテ日ク

亡くなりしつはもの左ちに榮之あれと

勝利のかけに祈るかなしみ

夕	間	戰	將	朝	大	夕	ヲ	之
ル	近	三	兵	元	元	ル	行	ヲ
賜	撃	日	一	香	師	ハ	ハ	要
ナ	ヲ	ノ	同	宮	陛	誠	益	ス
リ	敢	猛	軍	殿	下	=	々	ル
	行	攻	旗	下	ノ	感	光	=
後	シ	撃	ノ	ヲ	御	激	輝	本
日	内	=	下	軍	稜	=	ア	戰
聯	彈	引	二	司	威	堪	ル	鬪
隊	=	續	一	令	ノ	ハ	軍	=
ハ	ツ	キ	致	官	然	サ	旗	於
感	ツ	萬	團	=	ラ	ル	=	テ
狀	ク	難	綺	仰	シ	所	光	敵
ヲ	肉	ヲ	淳	キ	ム	=	彩	國
受	彈	排	仁	奉	ル	シ	ヲ	首
領	ヲ	シ	鎮	志	所	テ	添	都
シ	以	放	=	氣	=	之	ハ	=
又	テ	膽	於	益	シ	一	奉	一
先	猛	ナ	ケ	々	テ	=	ル	番
頭	攻	ル	ル	揚	又		ヲ	乘
ヲ	シ	夜	血	リ			得	リ

以テ光華門ニ突入セシ山際少尉ハ宮殿下ヨリ畏
 クモ其ノ佩刀ヲ賜レリ
 瀉化鎮攻撃以來商京城攻略迄ノ戦死者ハ故伊藤
 善光少佐以下ニ百六名戦傷者ハ小川大尉以下四
 百十五名ナリ

0447